

令和6年1月の思いやり通信



今年は歴史的高温 平均気温、1898年以降最高 エルニーニョ現象 影響か

*2023年の年平均気温が平年値（1991～2020年の平均）を1.34度上回り、1898年の統計開始以来最も高くなる見込み（気象庁発表）。

*南米ペルー沖の海水温が高い「エルニーニョ現象」による高温や地球温暖化が影響したとみられます。

（2023年12月23日 日本経済新聞記事より抜粋・引用）



核融合発電 50社連携 新組織 技術開発で協力

*次世代エネルギー技術である核融合発電の実用化に向けた産官学の連携組織が2024年3月に発足。

*核融合は発電時に二酸化炭素を排出せず、少ない燃料で膨大なエネルギーを生み出します。

*核融合反応は、熱などの条件を維持しないとすぐに止まります。

*原子力発電より安全性が高いとされます。

*日本政府は国際協力で建設する「国際熱核融合実験炉」（ITER）に参加しており、その成果を基に2050年ごろに原型炉を作って発電する目標を掲げています。

*核融合はより安全性が高いとはいえ、少量の放射性物質が発生するほか、超高温で安定して運用を続ける仕組みなど課題もあります。

☆核融合 膨大な熱量「地上の太陽」

*原子核同士を融合させて膨大なエネルギーが生じる反応を使って発電する技術。

*燃料の重水素は海水に含まれることから資源リスクが少なく、発電時に二酸化炭素（CO₂）を出さない。

*太陽も核融合反応で熱を生み出すので、核融合炉は「地上の太陽」と呼ばれる。

*核融合反応の安定には燃料を摂氏1億度の超高温に維持しなくてはならず、制御技術が課題。

*国際協力で日本や欧米などはこくさい熱核融合実験炉（ITER）の建設をフランスで進めており、2035年に核融合反応を起こして熱を発生させる計画。

（2023年12月26日 日本経済新聞記事より抜粋・引用）